

滝川市立江陵中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	滝川市立江陵中学校	(生徒数 332 名)
小学校名	滝川市立滝川第一小学校	(児童数 213 名)
	滝川市立滝川第二小学校	(児童数 294 名)
	滝川市立江部乙小学校	(児童数 49 名)

1 推進地域の状況

本推進地域では、学力に課題が見られるものの、児童生徒の多くは学習意欲が高く、良好な学習態度で授業に臨んでいる。一方、授業についていくことができず、学習面などの不安から欠席日数が多くなり、不登校となる児童生徒も見られるため、児童生徒個々の学習状況に応じた学習支援や家庭学習習慣の定着に向けた取組を行っている。

また、中学入学後に不登校生徒数が増加する傾向も見られることから、児童生徒の不登校の解消に向け、学校、保護者及び関係機関が連携を図りながら解決に向けた取組を行っている。

今年度から江陵中学校と江部乙中学校が統合し、校区に小規模校である江部乙小学校が加わったことから、児童生徒の不安感を解消するため、中1ギャップ解消に向けた取組を一層充実させていくことが必要である。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

令和4年度の推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

「自ら判断して行動することができ、他者とよりよい人間関係を築くことができる」

①「自ら判断して行動することができる」＝「自己指導能力がある」

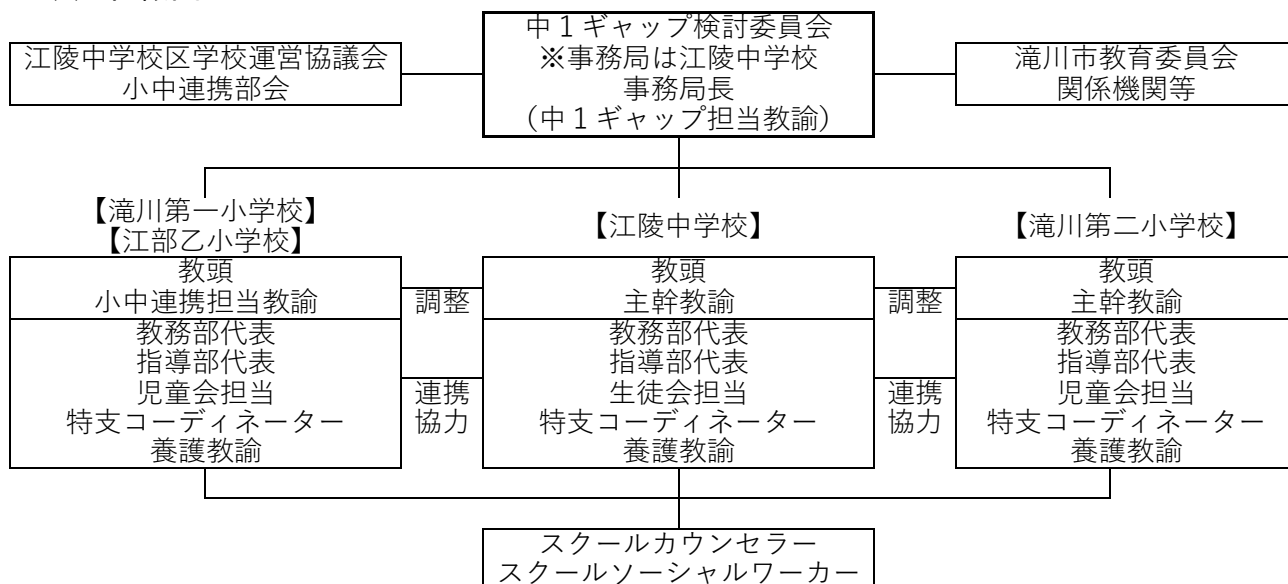
→生徒指導の三つの機能を活かした学習活動等を通して身に付けさせる。

②「よりよい人間関係を築くことができる」

→ピア・サポートなどの活動を通して身に付けさせる。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・中1ギャップ検討委員会では、中1ギャップ担当教諭が推進役となり、年間4回、定期的に検討委員会を開催し、本事業の進捗状況を確認するとともに、不登校児童生徒の支援策の具体について協議した。
- ・中1ギャップ検討委員会と江陵中学校区学校運営協議会の小中連携部会の役割や取組内容を整理したことにより、効率的に事業を進めることができた。
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」を各校で年2回実施するとともに、結果については、中1ギャップ検討委員会で分析し、分析結果をもとに各校の生徒指導担当者等と連携を図り、不登校の未然防止策及び支援策の具体について協議した。
- ・外部講師を招聘し、教員を対象に、子ども理解支援ツール「ほっと」の分析・活用とピア・サポートに関する小中合同研修会を実施し、児童生徒の望ましい人間関係づくりに向けた意識の向上を図った。
- ・小・中学校が連携してピア・サポートに取り組むことの意義や、先進的に取り組んでいる地域の実践、具体的な子どもの変容について研修を行い、ピア・サポートを各校の教育課程に位置付けて実践することの必要性について共通理解を図った。

(3) 加配教員の役割

- ・中1ギャップ検討委員会の推進及び小・中学校合同研修会の企画・運営
- ・中1ギャップ解消に向けた小・中学校9年間を見通した教育課程の改善
- ・小・中学校の円滑な接続に向けた取組の検討・実施
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」や「Q-U」、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査など、各種アセスメントツールや調査結果の分析
- ・各種アセスメントツールや調査結果の分析を踏まえた指導方針の作成・改善
- ・不登校児童生徒の支援策及び不登校未然防止策の作成・実施に向けた各校への働きかけ

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	滝川市立江陵中学校	滝川市立滝川第一小学校・滝川市立滝川第二小学校・滝川市立江部乙小学校
4月	【中心スタッフによる打合せ】 ○本年度の組織、年間計画、活動等の確認 ○本年度の推進地域の目標（小・中学校の重点目標）の検討	
	○中1ギャップ担当教諭から、教職員に対し、今年度の目標、年間計画、活動の重点について提示及び説明 ○全国学力・学習状況調査	○各校の中心スタッフから、教職員に対し、今年度の目標、年間計画、活動の重点について提示及び説明 ○全国学力・学習状況調査
5月	【第1回 中1ギャップ検討委員会】 ○小学校第6学年児童の交流会について ○「ほっと」アンケート①の実施について ○不登校傾向児童生徒の交流 ○中学校入学前後アンケートの実施について ○オンラインによる学習支援の取組交流 ○小中合同研修会①について	
6月	○いじめアンケート①の実施、集計 ○入学後アンケート①の実施、集計 ○「Q-U」の実施、集計、分析	○いじめアンケート①の実施、集計
	第1回 校区一斉家庭学習週間の実施	

時 期	江陵中学校	滝川第一小学校・滝川第二小学校・江部乙小学校						
7月	○「ほっと」アンケート①の実施、集計	○入学前アンケート①の実施、集計 ○「ほっと」アンケート①の実施、集計 ○小学校第6学年児童の交流会の実施						
<p style="text-align: center;">【第1回 江陵中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）】 ○本事業の説明及び小中連携部会への協力依頼</p> <p style="text-align: center;">「ほっと」アンケート①の結果分析、具体的な支援策の検討</p>								
8月	小中合同研修会①（「ほっと」の分析・活用について）の実施							
<p style="text-align: center;">【第2回 中1ギャップ検討委員会】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">○いじめアンケート①の結果について</td> <td style="width: 50%; border: none;">○「ほっと」②の実施について</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">○不登校傾向児童生徒の交流</td> <td style="border: none;">○自殺予防教育プログラムについて</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">○オンライン学習支援の取組の交流</td> <td style="border: none;">○入学後アンケート②の実施について</td> </tr> </table> <p>○全国学力・学習状況調査結果分析</p>			○いじめアンケート①の結果について	○「ほっと」②の実施について	○不登校傾向児童生徒の交流	○自殺予防教育プログラムについて	○オンライン学習支援の取組の交流	○入学後アンケート②の実施について
○いじめアンケート①の結果について	○「ほっと」②の実施について							
○不登校傾向児童生徒の交流	○自殺予防教育プログラムについて							
○オンライン学習支援の取組の交流	○入学後アンケート②の実施について							
9月	○「ほっと」プラス①の実施、集計	○全国学力・学習状況調査結果分析						
第2回 校区一斉家庭学習週間の実施								
10月	○教育相談の実施 ○小学校への職場体験学習の実施 ○自殺予防プログラムの実施	○教育相談の実施 ○中学生の職場体験学習の受入 ○自殺予防プログラムの参観						
11月	○いじめアンケート②の実施、集計	○いじめアンケート②の実施、集計						
第3回 校区一斉家庭学習週間の実施								
12月	○入学後アンケート②の実施、集計 ○「ほっと」アンケート②の実施、集計	○「ほっと」アンケート②の実施、集計						
「ほっと」アンケート②の結果分析、具体的な支援策の検討								
<p style="text-align: center;">【第3回 中1ギャップ検討委員会】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">○いじめアンケート②の結果について</td> <td style="width: 50%; border: none;">○入学後アンケート②の結果について</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">○不登校傾向児童生徒の交流</td> <td style="border: none;">○小中合同研修会②について</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">○オンライン学習支援の取組の交流</td> <td style="border: none;">○新入生説明会、体験授業について</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">【第2回 江陵中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）】 ○中1ギャップ問題未然防止事業の取組の報告 ○家庭学習週間の取組結果の交流</p> <p style="text-align: center;">長期休業中における中学生による小学生への学習支援の実施</p>			○いじめアンケート②の結果について	○入学後アンケート②の結果について	○不登校傾向児童生徒の交流	○小中合同研修会②について	○オンライン学習支援の取組の交流	○新入生説明会、体験授業について
○いじめアンケート②の結果について	○入学後アンケート②の結果について							
○不登校傾向児童生徒の交流	○小中合同研修会②について							
○オンライン学習支援の取組の交流	○新入生説明会、体験授業について							
1月	小中合同研修会②（ピア・サポート）の実施							
小学校第6学年児童と保護者を対象とした入学説明会の実施								
○自殺予防プログラムの実施		○自殺予防プログラムの参観						
2月	中学校での小学校第6学年児童の体験授業							
○「ほっと」プラス②の実施、集計	○入学前アンケート②の実施、集計							
第4回 校区一斉家庭学習週間の実施								
<p style="text-align: center;">【第3回 江陵中学校区学校運営協議会（コミュニティ・スクール）】 ○家庭学習の手引「まなびのさかみち」更新 ○今年度の活動反省</p>								

時 期	江陵中学校	滝川第一小学校・滝川第二小学校・江部乙小学校
3月	【第4回 中1ギャップ検討委員会】 ○入学前アンケート②の結果について ○不登校傾向児童生徒の交流 ○今年度の事業反省と次年度に向けて 「ほっと」を活用した小・中学校引継ぎ	

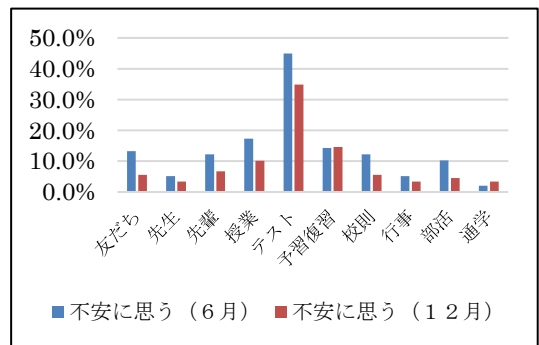
5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、子ども理解支援ツール「ほっと」や全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査などのアセスメントツール、各種調査の結果を分析し、小・中学校間で分析結果を共有した上で交流したことにより、推進地域の課題や中1ギャップ問題未然防止事業の取組成果等について共通理解を深めることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域における「目指す子どもの姿」に向け、生徒指導の3つの機能を活かした学習活動やピア・サポートを取り入れて教育課程の改善を図ったことにより、中学校第1学年生徒を対象とした、学校生活における不安についてのアンケートにおいて、6月と12月を比較したところ、ほぼ全ての項目で「不安に思う」と回答した生徒の割合が減少した。



【学校生活における不安についてのアンケート結果の比較】

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

夏季休業後の「心と身体のチェック」の結果において、否定的な回答が多い生徒を対象に教育相談を実施したことにより、第1学年の全てのクラスで、子ども理解支援ツール「ほっと」の「緊張を抑える要素」の項目において数値の向上が見られた。

	1回目 (7月)	2回目 (12月)
1年1組	2.6	2.7 (+0.1)
1年2組	2.5	2.7 (+0.2)
1年3組	2.4	2.5 (+0.1)

【「ほっと」：緊張を抑える要素】の変化】

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

自殺予防教育を加配教員が中心となって実施したことにより、第2学年及び第3学年の全てのクラスで、子ども理解支援ツール「ほっと」の「関係維持の因子（良い関係を保つ力）」の項目において数値の向上が見られた。

	1回目 (7月)	2回目 (12月)
2年1組	50.4	51.1 (+0.7)
2年2組	47.5	48.5 (+1.0)
2年3組	49.3	53.3 (+4.0)
3年1組	50.7	51.0 (+0.3)
3年2組	51.1	51.5 (+0.4)
3年3組	50.4	50.7 (+0.3)

【「ほっと」：関係維持の因子得点（良い関係を保つ力）」の変化】

6 今後の課題と対応

○ 中学校区における、学習規律と学習過程の統一

小・中学校の接続を円滑にするため、学習規律や学習過程を小・中学校で統一する必要があることから、江陵中学校における学習規律及び学習過程をもとに、各小学校において共通した取組を進める必要がある。

○ 小学校における、「特別活動」の年間指導計画へのピア・サポートの位置付け

江陵中学校において、ピア・サポートの取組に成果が見られたことから、小学校においても、ピア・サポートを「特別活動」の年間指導計画に位置付けるとともに、加配教員を中心として児童生徒の実態や発達の段階に応じた系統的なプログラムを作成していく必要がある。

○ 学校・家庭・地域が一体となった取組の推進

中1ギャップ問題未然防止事業の取組について学校間で組織的に取組を推進したが、地域や家庭との連携が不十分であったことから、中学校区全体で家庭や地域に取組を広く周知し、学校・家庭・地域が本取組を理解し、協力を充分に得ることで、取組の充実を図っていく必要がある。

江別市立江別第二中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 江別市立江別第二中学校（生徒数 303 名）
小学校名 江別市立江別第二小学校（児童数 610 名）

1 推進地域の状況

江別第二小学校と江別第二中学校は、平成29年度に江別市の小中一貫教育モデル校に指定され、中1ギャップの解消を目的に、小学校第6学年の中学校体験や部活動体験、小中合同地域清掃などを行い、児童の中学校進学に対する不安を解消したり、期待感を高めたりする取組を進めてきた。

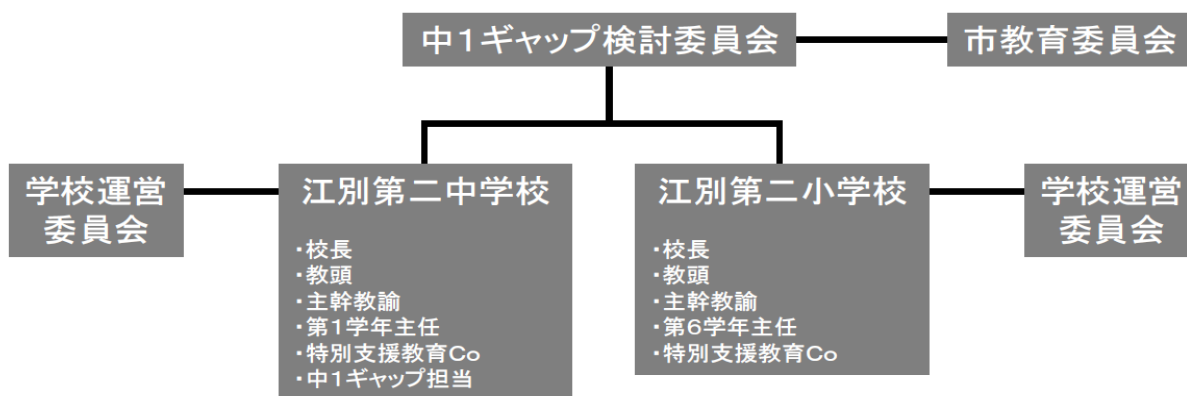
一方で、中学校進学後、不登校及び不登校傾向の生徒が増加傾向であり、全国学力・学習状況調査生徒質問紙の結果において、生徒の自己肯定感が低い傾向が見られたことから、小・中学校の全教職員で学習規律や学習指導の在り方についての共通理解や、不登校の兆候が見られ始めた児童生徒に対する情報共有を含めた早期対応の充実など、中学校進学に向けた円滑な連携体制の構築に向けた取組を進めている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校の連携体制を構築し、学習指導や生徒指導など教育活動の改善・充実を図ることにより、児童生徒のよりよい人間関係を築く力を育成する。
- 不登校をはじめとする生徒指導上の諸課題の解決に向けて、中学校区における中1ギャップの解消や未然防止を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙や学校評価等による現状把握と取組の検証、改善
- ・教育相談や「ほっと」、「ほっとプラス」、生徒アンケートの実施による児童生徒の実態を踏まえた学級経営の充実及びいじめや不登校の未然防止
- ・中1ギャップによる不登校の解消に向けた取組について、江別市内の「小中ブロック研修会」において「不登校支援分科会」を開設し、江別市教育委員会及びスクール


ソーシャルワーカーと共同で情報を共有し、具体的な支援の方策について協議するなど、関係機関と連携した推進体制の構築

(3) 加配教員の役割

- ・小・中9年間の教育課程の編成
- ・「ほっと」や「ほっとプラス」、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の分析及び調査結果を踏まえた指導方針の作成、改善
- ・不登校児童生徒の支援策の作成、実施
- ・不登校未然防止策の作成、実施

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	江別市立江別第二中学校	江別市立江別第二小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江別市中1ギャップ検討委員会の設置 ○ 総合的な学習の時間の教育課程の見直し ○ 「家庭学習のすすめ」の配付 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 江別市中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の役割、取組内容、年間計画の確認 ○ 中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・各推進地域の計画や加配教員の活用状況についての交流 ○ 小学校第6学年の中学校体験① 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ撲滅集会 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心でオンラインでの実施 ・全校生徒で「人権宣言」を採択 ○ 生徒指導交流会（以降、毎月実施） ○ 校内支援委員会 ○ 生徒アンケート① ○ いじめアンケート① 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童実態交流会（毎月実施） ○ 「ほっと」① ○ 児童アンケート① ○ いじめアンケート①
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営委員会(小中合同)① <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員による小学校授業参観 ○ 小学校第2学年の中学校探険 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」① ○ 教育相談(全学年) ○ 情報モラル講演会 ○ SOSの出し方に関する教育 ○ 「心と身体のチェック」① 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第6学年の部活動体験①

時 期	江別第二中学校	江別第二小学校
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第6学年の部活動体験② ○ 小学校第6学年の中学校体験② ○ 小学校・中学校連携挨拶運動① 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査生徒質問紙分析結果の交流 ○ 「心と身体のチェック」② 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査児童質問紙分析結果の交流
9月		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽交流会(特別支援学級) ○ 学校運営委員会(小中合同)② <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員による中学校授業参観 ○ 小学校・中学校地域合同清掃 	
	○ いじめアンケート②	○ いじめアンケート②
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校音楽科教員による小学校への乗入れ授業 ○ 小学校・中学校連携挨拶運動② ○ 江別市小中ブロック研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校支援分科会の実施 ・「児童生徒理解・支援シート」を活用した、スクールソーシャルワーカーとの協議 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」② ○ 生徒アンケート② ○ 「江別市ストレスチェック」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」② ○ 児童アンケート②
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三者懇談 ○ 「ほっとプラス」 	○ いじめについて考える集会
	○ 小学生による中学校体験(特別支援学級)	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ えべつ中学生サミット&いじめ根絶子ども会議(江別市内中学校) ○ 「心と身体のチェック」③ 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第6学年の中学校体験③ ○ 中1ギャップ問題未然防止事業第2回運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校第1学年及び小学校第6学年の合同授業 ・これまでの取組についての発表 ・管理職、加配教員、中1ギャップ検討委員会メンバーとの協議 	 <p style="text-align: right;">【中学校体験の様子】</p>
2月	○ 学校運営委員会(小中合同)③	○ 第6学年外国語科の「CAN-DOリスト」調査

時期	江別第二中学校	江別第二小学校
3月	○ 中学校入学に向けた引継ぎ	○ スクールソーシャルワーカーによるSOSの出し方に関する教育（第6学年）

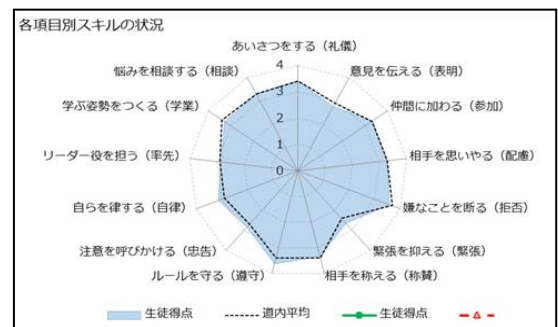
5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

- ・中学校において、加配教員と特別支援教育コーディネーターが中心となって、外部機関と連携を図ることにより、不登校の未然防止や早期発見、早期対応を図ることができた。
- ・「ほっと」等の分析や不登校児童生徒の支援策などについて、小学校と情報共有を行ったことにより、小・中学校間で共通理解を深めることができた。
- ・「ほっと」等の各種調査結果を踏まえ、全教職員が生徒のよさや可能性を引き出し、生徒に自信をもたせる指導の充実を図ったことにより、全国学力・学習状況調査生徒質問紙の「自分には良いところがあると思う」の項目において、「当てはまる」と回答した生徒の割合が39.7ポイントとなり、全国平均を3.7ポイント上回った。

○ 効果的な教育課程の改善

- ・推進地域における目指す子どもの姿に向け、9年間を見通して育成する資質・能力を踏まえた教科系統表を作成し、各教科等における成果と課題を明示したことにより、小・中学校間で連携した授業改善の取組を進めることができた。
- ・中1ギャップ解消に向け、連携を強化したことにより、7月に中学校の全学年で実施した「ほっと」において、第1学年については、「関係維持」が50.8ポイント、「仲間強化」が51.1ポイント、「自己統制」が50.7ポイントとなり、全道の平均を上回った。



【7月に実施した第1学年の「ほっと」の結果】

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・否定的な回答やコメントをしている生徒に対して教育相談を実施したことにより、生徒の心や身体の状態を具体的に把握することができた。
- ・「心と身体のチェック」の結果について、全個票データと集計データを基に全教職員で共有したことにより、生徒の心身の状態について、客観的に把握することができた。

6 今後の課題と対応

● 小・中学校の9年間を見通した指導の推進

- ・推進地域における目指す子どもの姿を具現化できていないため、全教職員で、各教科等の授業改善を進めるとともに校務分掌においても、より一層組織的に取り組む必要がある。

● 不登校児童生徒の減少に向けた取組の充実

- ・中学校において不登校生徒数が前年度よりも増加しているため、児童生徒に寄り添った関わり方や教育相談の方法などについて、小・中学校の教職員間で研修等を通して理解を深めるとともに、自己肯定感の育成に向けた取組の充実を図る必要がある。

小樽市立北陵中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 小樽市立北陵中学校 (生徒数 240 名)
 小学校名 小樽市立高島小学校 (児童数 185 名)
 小樽市立手宮中央小学校 (児童数 215 名)

1 推進地域の状況

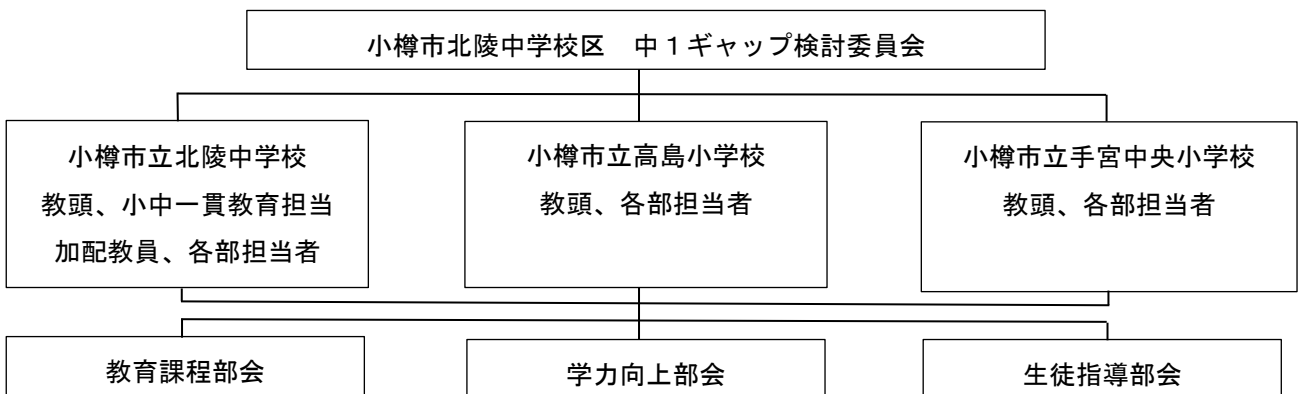
北陵中学校区の不登校児童生徒数は、新規数に比べ継続数が多く、長期化の傾向が見られる。不登校の要因としては、基礎的な学力や学習習慣の未定着などが挙げられるが、生活環境等に係るものも多い。そのため、学級担任による丁寧な対応はもとより、小樽市こども未来部、スクールカウンセラー、北海道警察本部少年サポートセンター、中央児童相談所等の各種機関と連携を図りながら対応している。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 3校の目標（北陵地区の小中一貫教育 グランドデザインより）
 - ・夢や目標の実現を目指し、たくましく生きる北小樽の児童生徒の育成
- 9年間で目指す子ども像
 - ・自分で考え、判断し、学ぶことができる子ども
 - ・自他共に大切にできる子ども
 - ・すすんで挨拶し、善悪の判断をし、正しく行動ができる子ども
 - ・自ら目標に向かって、たくましくやりぬく子ども
- 令和4年度の3校の学校経営の重点
 - ・「未来につながる力を育てる」～小中一貫教育の推進～

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



○ 小・中学校における業務分担

	管理職	小中一貫教育担当(主幹教諭)	加配教員	各部長・副部長
小学校	・中1ギャップ検討委員会日程調整			・各部のテーマ設定
中学校	・各種部会日程調整 ・市教委、関係機関との連携及び調整	・関係機関との連携推進 ・地域、各部との連絡、調整	・中1ギャップ検討委員会企画、運営 ・校内における企画、立案、運営	・各部の活動内容の企画、立案、運営 ・校内における連絡調整

(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・小中一貫推進委員会の中に位置付けた「中1ギャップ検討委員会」の定期開催
- ・小中合同研修会の開催
- ・配慮が必要な児童生徒の情報共有及び支援体制の整備
- ・合同授業や児童生徒の交流など児童生徒が主体となった取組の充実

(3) 加配教員の役割

- ・小中一貫推進委員会の中に位置付けた「中1ギャップ検討委員会」の企画・運営
- ・中1ギャップ解消プランの作成、実施
- ・小・中学校9年間の単元配列表編成
- ・小学校及び関係機関との連絡調整及び不登校対策委員会の実施
- ・「ほっと」「ほっとプラス」等、各種調査の分析及び改善計画作成
- ・不登校児童生徒に対するICT等を活用した支援及び「ICT活用計画」の作成、実施
- ・小学校第5・6学年合同授業の計画・運営
- ・不登校生徒の組織的な対応を目指し、「学級担任」「教科担任」「適応指導教室」「学習支援員」などと連携した学習指導の調整
- ・「自殺予防教育プログラム」の作成、実施

4 中1ギャップ解消プランの実際



小・中学校での取組

乗り入れ授業（通年）

時 期	小樽市立北陵中学校	小樽市立高島小学校・小樽市立手宮中央小学校
4 月	<p>【中1ギャップ検討委員会①】 欠席状況報告書 小学校から中学校へ引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長による全校生徒面談（4～11月） ・情報モラル教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長による全校児童面談（4～2月 高島小）
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の専科教員による児童理解会議（学期に1回+随時）
6 月	<p>【中1ギャップ検討委員会②】</p> <p>各回「教育課程部会」「学力向上部会」「生徒指導部会」で、不登校児童・生徒やヤングケアラーの実態等中1ギャップ解消に向けた取組の検討及び検証</p> <p>【合同授業①】 図工 体育 道徳</p> <p>第5・6学年を対象に道徳、体育、音楽、図工、総合的な学習の時間を2校混合2クラス編成で中学校教員が中学校校舎で授業を各学年5回実施</p> <p>【生活・学習アンケートの実施及び分析①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外清掃
7 月	<p>【潮ねりこみ】 学校、PTA、地域が連携をして、子どもたちを支えていく土台の醸成</p> <p>【「ほっと」の実施・分析①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心と身体のチェック」① 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの実施

乗り入れ授業
(外国語・理科)

相互乗り入れ授業
(算数・数学)

時 期	北陵中学校	高島小学校・手宮中央小学校
8月	<p>【中1ギャップ検討委員会③】</p> <p>【小中合同研修会】</p> <p>○ テーマ「子どもたちに付けたい力～小・中学校9年間を通して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校実践発表 ・意見交流（小グループ→全体交流） ・部会別交流「教育課程部会」「学力向上部会」「生徒指導部会」 	<p>乗り入れ授業 (外国語・理科)</p> <p>相互乗り入れ授業 (算数・数学)</p>
		・生活リズムチェックシートの実施
9月	<p>【合同授業②】音楽 図工 体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心と身体のチェック」② ・「ほっとプラス」の実施・分析① ・ふるさと教育「高島越後盆踊り」 	
10月	<p>【合同授業の実施③】図工 体育 道徳（第6学年） 音楽 図工 体育（第5学年）</p> <p>中学校第2学年が、小学校第6学年に向けて中学校の生活や学習についてプレゼンテーションを実施。終了後は小中学生混在の小グループで、小学生の質問に答えるプロジェクトを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラム開始（～12月） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談しやすい関係づくりに向けて」※教員対象 ・入学予定児童の体験入学 ・新入生アンケートの実施 	
	<p>【公開研究会相互参加】※10月～11月</p> <p>各学校共通の視点 「単元デザイン」「課題設定」「クロムブックの活用」</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラム 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい人間関係に向けて ※生徒対象 講師 スクールカウンセラー ・教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回展示（小学校2校 家庭学習ノート交流） ・家庭学習強化週間（小学校第6学年） ・生活リズムチェックシートの実施
		
12月	<p>【合同授業④】音楽 図工 体育</p> <p>【いじめ防止サミット】</p> <p>「いじめの未然防止」「ネットいじめ」についてそれぞれの学校で話し合ったことを発表し、3校共通で取り組む内容について決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教室 全校縦割り小グループによる話し合い <p>【生活・学習アンケートの実施及び分析②】</p> <p>【「ほっと」実施・分析②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとプラス」の実施、分析② 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート ・生活リズムチェックシート実施

時 期	北陵中学校	高島小学校・手宮中央小学校
1月	【合同授業⑤】道徳 総合的な学習の時間	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 乗り入れ授業 (外国語・理科) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 相互乗り入れ授業 (算数・数学) </div>
	【新入生保護者説明会】	
	【中1ギャップ検討委員会⑤】	
	【巡回展示 中⇔小 小⇔小】作品交流 ・「心と身体のチェック」③	
2月	【中1ギャップ検討委員会⑥】	・家庭学習強化週間 (小学校2校 第5・6学年)
	【児童・生徒学習習慣啓發文書配付】 ・雪かきボランティア	
3月	【新入学生徒に関する引継ぎ】	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に不登校生徒の状況把握や学習支援等に組織的に取り組んだことにより、学級担任ばかりに負担がかからないようになった。また、登校支援室を訪問し、数学や英語等の授業を実施するなど支援の幅が広がった。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域における目指す子どもの姿の実現に向け、9年間を見通して育成する資質・能力を踏まえて「単元配列表」を作成したことにより、課題がある学習内容を明確にした単元デザインを遂行することができた。また、9年間の系統性を重視した学習指導の充実を図ることができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

否定的な回答が多い生徒に対して教育相談を実施した。また、各回の結果を職員全体で交流し、生徒の見守りを全教職員で行ったことで、生徒の安心感につながった。

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

各種自殺予防教育をスクールカウンセラー、道徳教育推進教師、研究部長、保健体育担当教員、加配教員等が連携して実施したことにより、「ほっと」の偏差値が各項目微増ではあるが伸びてきている。また、全校縦割り小グループによる「人権(いじめ)について」の話合いを設けたことで、いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成につなげることができた。

6 今後の課題と対応

○ 小・中学校9年間を通したソーシャルスキルの育成

中学校で設定している33スキルの「自分の考え、思いを『表現すること』ができる」については、生徒、保護者、教員三者において肯定的回答が常に低く課題がある。小・中学校の学級活動、児童・生徒会活動、各種行事等を通して、ソーシャル・スキル・トレーニングを意図的に入れ、「人と関わる力」の育成を目指していく必要がある。

登別市立鷺別中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 登別市立鷺別中学校（生徒数 262 名）
小学校名 登別市立鷺別小学校（児童数 237 名）
登別市立若草小学校（児童数 299 名）

1 推進地域の状況

本事業2年目を迎え、いじめ問題や人間関係のトラブルに起因して不登校に至る例はほとんど見られないが、人間関係を築くためのきっかけを自らつくることができずに孤立感を覚えたり、周囲の目を気にするあまり、強い不安感に襲われたりして、教室に入れなくなる児童生徒や、ゲームやスマホ依存による昼夜逆転の生活が原因で、遅刻や欠席が増える児童生徒が増加している。また、学習内容の難しさや提出物の期限等に直面し、体調不良を訴え始め、遅刻、欠席が増え始めるケースが中学校で特に多く見られる。このようなことから、保護者の啓発のみならず、幼保小中の緊密な連携や関係機関の活用をより一層充実させる必要がある。

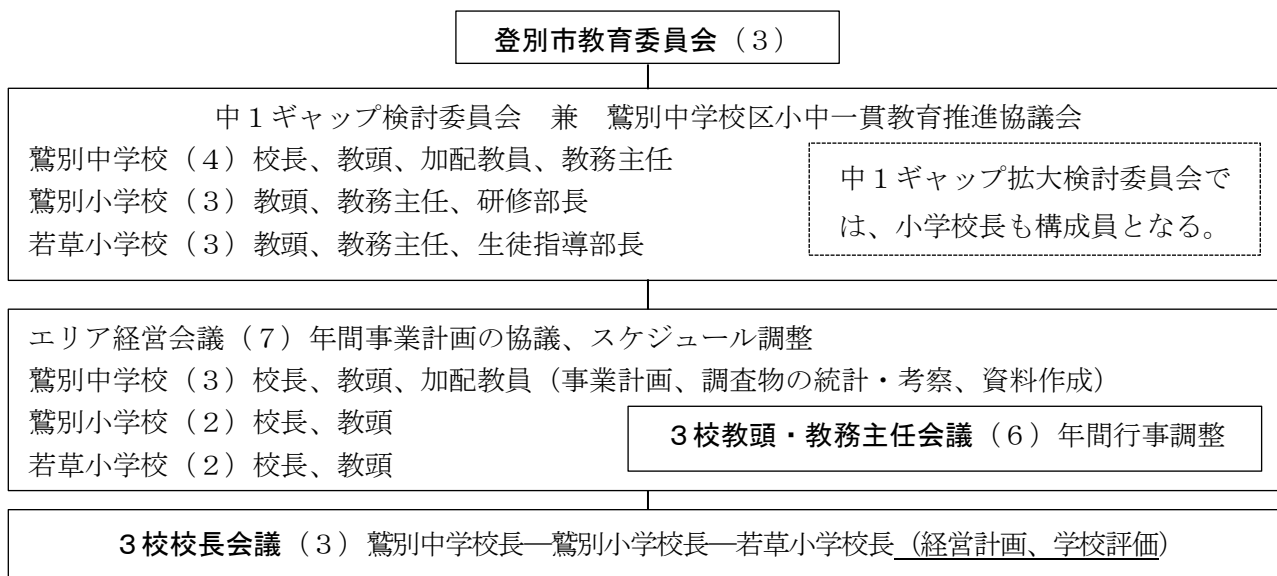
2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

「受け入れ合い、支え合い、高め合う生徒」（鷺別中学校区で目指す15歳の姿）
～互いの考えや意見を尊重した発言・行動を通して～

- (1) 「意見を伝える（表明）力」の向上のための取組
- (2) 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する態度」の向上のための取組
- (3) 「自分と違う意見について考えることは楽しいと捉える態度」の向上のための取組

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



※（ ）内は構成員の人数

(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「中1ギャップ検討委員会」の開催に係り、協議に時間を要する案件について、3校の校長及び加配教員による事前協議及び原案の作成

- ・子ども理解支援ツール「ほっと」、生活アンケート、全国学力・学習状況調査の分析結果等、客観的なデータに基づくPDCAサイクルの確立
- ・調査等の分析結果について、ICTを活用し、各学校が事前に検討委員会に送信及び共有するなど迅速な情報のやりとり

(3) 加配教員の役割

- ・調査等の分析結果を踏まえて、「中1ギャップ検討委員会」で作成した重点目標及び共通実践項目について、中学校区全教職員への周知及び徹底
- ・調査等の分析結果を踏まえて、中学校区における生活習慣の定着に向けた資料及び学習規律系統表の作成
- ・児童生徒及び保護者を対象とした、中1ギャップに関するアンケートの実施と集約

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	登別市立鷺別中学校	登別市立鷺別小学校・登別市立若草小学校
2～3月	【3校校長打合せ】 ○ 小中一貫教育推進全体構造図と整合性のとれた令和4年度学校経営計画作成について	
4月	【携帯・スマホアンケート実施】 ○ 登別市小中学生を対象とした「ケータイ・スマホに関するアンケート」実施とルールの指導及び啓発 ○ 中学校区における所有率、使用時間や使用方法における課題の把握、指導及び啓発 【SOS発信に関する学級指導】 ○ 学級開きに合わせ、友だちや学級担任、学級担任以外の教員、管理職など相談しやすい人を見つけること、スクールカウンセラーや電話相談など外部機関の活用について紹介	
5月	【第1回鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 兼 第1回中1ギャップ検討委員会】 ○ 小中一貫教育推進のための全体構造図（案）の協議 ○ 9年間を踏まえた学習規律の系統表（案）の協議 ○ 望ましい生活習慣の定着に向けた啓発資料（案）の協議 ○ 生徒児童の学校生活等に関する情報交換 【第1回中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会】 ○ 加配教員及び管理職が参加し、事業推進の方向性を確認 【第1回登別市いじめ・不登校対策会議】 ○ いじめの積極的な認知と組織的な対応に関する研修 ○ 各校におけるいじめ問題・不登校児童生徒に関する対策の交流	
7月	【「ほっと」1回目実施】【「アセス」1回目実施（中学校のみ）】 【「ほっとプラス」1回目実施（中学校第3学年）】 【第2回鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 兼 第2回中1ギャップ検討委員会】 ○ 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙及び「ほっと」1回目の結果分析を踏まえた成果と課題の抽出 ○ 令和4年度鷺別中学校区合同研修についての協議 ○ 小中一貫教育推進のための全体構造図及び9年間を踏まえた学習規律系統表の決定 ○ 児童生徒の学校生活等に関する情報交換 【第2回登別市いじめ・不登校対策会議】 ○ 各校におけるいじめ問題・不登校児童生徒に関する対策の交流 【夏休み前・「心と身体のチェック」実施（中学校）】	
8月	【鷺別中学校区合同研修（会場：鷺別小学校）】 ○ 鷺別小学校において全学級授業公開し、鷺別中学校及び若草小学校教員による授業参観 ○ 令和4年度全国学力・学習状況調査、児童生徒質問紙の結果分析による、児童生徒の変容と課題の把握 ○ 「ほっと」1回目の結果分析による児童生徒の変容と課題の把握 ○ 小中一貫教育推進のための全体構造図の周知 ○ 9年間を踏まえた学習規律の系統表の周知及び実践 【「アセス」・「ほっと」結果を活用した生徒理解研修1（中学校）】 ○ 生徒への共感的態度を重視した生徒指導についての協議 【夏休み明け・「心と身体のチェック」実施（中学校）】	

時 期	鷺別中学校	鷺別小学校・若草小学校
9月	【集団カウンセリング研修（加配教員受講）】（オンライン）	
10月	【第3回鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 兼 第3回中1ギャップ検討委員会】 ○ 合同研修の成果と課題の協議 ○ 小学校第6学年への家庭学習の手引き（中学校用）配付についての周知 ○ 児童生徒の学校生活等に関する情報交換 【第3回登別市いじめ・不登校対策会議】 ○ いじめの積極的な認知と組織的な対応に関する研修 ○ 各校におけるいじめ問題・不登校児童生徒に関する対策の交流 【第1回鷺別中学校体験入学】※2日間日程 ○ 中学校第1学年授業の参観、中学校生活のきまりに関する説明、学校・生徒会行事説明、部活動見学	
11月	【第2回登別市鬼っ子フォーラム】 ○ 「みんなが通いたくなる学校」をテーマに、市内全ての小・中学校、高等学校の代表児童生徒が参集し、表題について討論 ○ 室蘭工業大学教授と参加児童生徒、高校生によるパネルディスカッションの実施 【第2回鷺別中学校体験入学】※2日間日程 ○ 外国語科と理科の授業（各50分）を全員が体験 ○ 中学生用の家庭学習の手引きを配付 【体験入学後アンケート】 ○ 小学校第6学年児童に対し、体験入学の感想と入学にあたり不安なことについて実施 【いじめへの組織的な対応（加配教員受講）】（オンデマンド）	
12月	【「ほっと」2回目実施】【「アセス」2回目実施（中学校のみ）】 【「ほっとプラス」2回目実施（中学3年生）】 【中1ギャップ問題に関するアンケート】 ○ 中学生（第1学年限定の項目を新設）、小学校高学年児童の保護者、児童生徒の保護者を対象に、Web形式による回答 【鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会日より「わかわし通信」第1～4号発行】	
1月	【第4回鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 兼 第4回中1ギャップ検討委員会】 ○ 「ほっと」2回目の結果に関する情報交流と児童生徒の変容についての協議 ○ 体験入学後のアンケート、中1ギャップ問題に関するアンケート結果分析を踏まえた情報交流 ○ 小中一貫教育に関する学校評価の情報交流 ○ 児童生徒の学校生活等に関する情報交換 【鷺別中学校区3校教頭・教務主任会議】 ○ 教育課程を踏まえた行事日程等の協議 【鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会日より「わかわし通信」第5～7号発行】 ○ 体験入学の感想やアンケートの結果についての周知 ○ 中1ギャップに関するアンケート結果と教育相談の窓口などについての確認 【「アセス」・「ほっと」の結果を活用した生徒理解研修2（中学校）】 ○ 児童生徒への共感的態度を重視した生徒指導についての協議 ○ 「アセス」・「ほっと」の結果分析を踏まえ、生徒理解研修1との比較から特別な配慮を必要とする児童生徒の把握 【冬休み明け・「心と身体のチェック」実施（中学校）】	
2月	【第4回登別市いじめ・不登校対策会議】 ○ いじめの積極的な認知と組織的な対応に関する研修 ○ 各校におけるいじめ問題・不登校児童生徒に関する対策の交流 【3校校長打合せ】 ○ 令和5年度学校経営計画作成にあたり配慮事項の確認	
3月	【第5回鷺別中学校区小中一貫教育推進協議会 兼 第5回中1ギャップ検討委員会】 ○ 今年度事業及び具体的実践項目についての成果と課題 ○ 令和5年度本事業の方向性についての協議 【新入生に係る引継ぎ】 ○ 学習のようす、生活のようす、交友関係、家庭環境等 ○ 特別な配慮を要する児童に係る情報共有	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中学校第1学年の学級担任にし、中1ギャップ問題に直面する生徒を直接指導及び観察したことにより、その様子や状況を踏まえた資料などを作成し、中学校区全体に周知・徹底を図るとともに、調査等の分析結果及び具体的な取組を生徒に伝え、本事業の意義や役割を意識した教育活動を推進することができた。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域における目指す子どもの姿の実現に向け、9年間を見通して育成する「共通実践項目」を設定し、各校が実践したことにより、児童生徒の学習指導及び生徒指導の方向性が明確になり、小・中学校が一体となった取組を推進することができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

否定的な回答が多い生徒に対して、教員全員が観察や声かけを多くしたり、教育相談を実施したりすることにより、生徒の悩みや不安に対してきめ細かな支援を行うとともに、教職員が組織的に取り組むことができた。

○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の継続的な活用

昨年度に引き続き、「意見を伝える力（表明）」を重点の一つとして取り組み、学級編成から日の浅い小学校第5学年、中学校第1、2学年に比べ、集団の母体が同じ小学校第6学年、中学校第3学年は上昇又は高い数値を維持しており、集団育成を自己評価するための一つのツールとして活用することができた。

「ほっと」における「意見を伝える力」（表明）の変容 ※令和3年度の数値は前学年のもの

	令和3年7月	令和3年12月	令和4年7月	令和4年12月
鷺別中学校第3学年	2.9	3.0	3.1	3.2
鷺別小学校第6学年	3.1	3.2	3.1	3.2
若草小学校第6学年	2.9	2.9	2.9	3.0

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

学級活動において、スクールカウンセラーが主体となり、自殺予防教育プログラムを中学校全学年で実施したことにより、生徒からストレス解消や援助希求的態度の育成に向けた肯定的な回答が多く聞かれるなど、自殺予防教育を充実させることができた。

6 今後の課題と対応

○ レジリエンス育成に向けた家庭や関係機関との連携

これまでの実績を踏まえ、体験入学の複数回実施や、小学校第6学年への「家庭学習の手引き」配付等により、中学校入学後の学習面の不安軽減に向けた改善策を講じているが、難しい課題に対して、乗り越えることができず、遅刻や欠席が多くなる生徒が増加している状況が見られることから、学校と家庭が連携し、生活の場面において、失敗することや立ち直ること、自信をもつことなどを経験させるとともに、援助希求的態度の育成に関連し、中学校区の幼保小中が連携し、長期的な取組を推進する必要がある。

様似町立様似中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 様似町立様似中学校（生徒数 86名）
小学校名 様似町立様似小学校（児童数139名）

1 推進地域の状況

様似町は、日高管内東部に位置し、人口が約4,000人である。町内には、小学校1校、中学校1校があり、各校とも全学年単学級のため、児童生徒は、小学校入学から中学校卒業まで、ほぼ同じメンバーで過ごしている。

また、平成29年より施設分離型小中一貫校とし、9年間を見通した教育活動の推進に取り組んでいる。

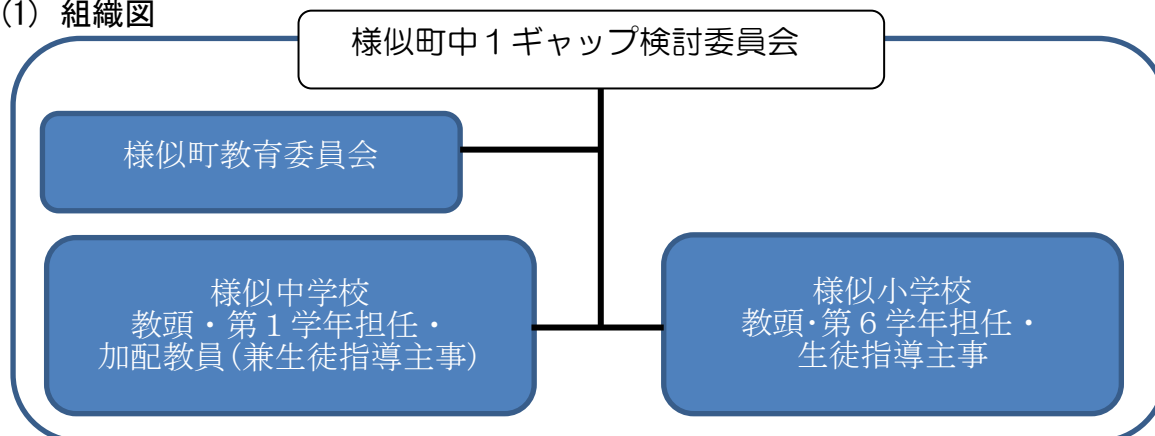
全国学力・学習状況調査において、全国平均・北海道平均と比較し、思考力、判断力、表現力等の定着に課題が見られるとともに、児童生徒質問紙調査において、スマートフォンやゲームに費やす時間について、全国平均を大きく上回っていることから、思考力、判断力、表現力等の向上に向けた授業改善及び生活習慣の改善が課題である。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 授業や各種行事を通じて、よりよい人間関係を築くために必要な社会的スキルを育成する。
- (2) 小・中学校間のギャップをなくすことはもとより、変化に対応できる人間性や忍耐力、寛容性を育成する。
- (3) 小・中学校で、学習規律、生活規律の改善について、統一した取組を行うとともに、改善のための取組内容を、家庭と共通理解を図ることで、学校と家庭が連携して、児童生徒の指導に当たることができる体制づくりを推進する。
- (4) 小学校第6学年児童が中学校へ定期的に登校する取組（以下「6年生登校」）の際、中学校教員が、乗り入れ授業を行ったり、総合的な学習の時間等で、中学生と交流する機会を設定したりすることで、児童生徒だけでなく、小・中学校の教職員がもつ学校間の垣根を低くし、義務教育9年間を見通した教育課程の充実を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「中1ギャップ問題未然防止連絡会議」における各校の不登校児童生徒について実態交流及びICTを活用した学びの保障等の対応策の検討（月1回）
- ・「いじめ防止対策委員会」における各校のいじめの状況について情報交換及び対応策の検討
- ・「6年生登校」における、中学校教職員による小学校第6学年児童への乗り入れ授業の実施

(3) 加配教員の役割

- ・「6年生登校」等、中1ギャップ問題未然防止に係る具体的な取組を実施する際の、各学校への周知及び連絡調整
- ・「中1ギャップ問題未然防止連絡協議会」の招集、企画及び運営
- ・「いじめ防止対策委員会」における、不登校問題を抱える児童生徒への対応策の検討
- ・中学校の「全校総合学習発表会」への小学校第6学年児童の参加に係る連絡調整及び学習内容に係る研修の企画

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	様似町立様似中学校	様似町立様似小学校
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒に関する引継ぎ（様似小学校と実施） <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、特技交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を活用した特別な教育的支援を必要とする児童生徒についての実態交流 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学生徒を含む全生徒の生徒指導に係る配慮事項等の交流及び情報共有 ○ 中1ギャップ問題未然防止委員会の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入学児童を含む全児童の生徒指導に係る配慮事項等の交流・情報共有 ○ 中1ギャップ問題未然防止委員会の設置
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回いじめ防止対策委員会（「中1ギャップ未然防止プラン」の確認・検討） <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律・学習習慣等の交流（小中学校における実態交流及び課題の共有） ○ 第1回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、児童生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 ○ 自殺予防教育プログラムの実施（第1学年の特別活動で3時間実施） 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「6年生登校」の開始（年間14日） ○ 第2回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、児童生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、児童生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 ○ 第1回「ほっと」の実施（小・中学校全クラス実施及び実施校での分析） ○ 様似町小中学校一貫教育教科別系統表の改善に係る協議 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校6年生の歌声交流会への参加 ○ 第1回「ほっと」の分析結果交流 ○ 第4回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、児童生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回いじめ防止対策委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律・学習習慣等の交流（共通実践の検討） ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	

時 期	様似中学校	様似小学校
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、指導生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 ・「心と体のチェック」の結果を活用した個人面談の実施 ・様似町小中学校一貫教育教科別系統表の改善に係る実態の交流 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第6回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、指導生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（中1特設授業） ・ICTを活用した別室登校生徒への支援状況の交流 ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第7回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、指導生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 ○ 小学校6年生と中学校3年生との総合的な学習の時間の合同実施 ○ 中1ギャップ第2回連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果と課題についての協議 ・来年度に向けた本事業の方向性についての協議 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回「ほっと」の実施（小・中全クラス実施及び実施校での分析） ○ 小学校6年生の全校総合学習発表会への参加 ○ 小「英語deトライ」中「Englishトライアル」の小・中合同実施 ○ 第8回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、指導生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自殺予防教育プログラムの実施（第1学年の保健体育で3時間実施） ○ 自殺予防教育プログラムの実施（第1学年の特別活動で1時間実施） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3日連続の「6年生登校」の実施（ロングラン登校） ○ 新入生学校説明会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・体験授業（音楽） ・入学説明（中学校の生活、心得やきまり等の説明） ○ 「ほっと」分析結果の交流 ○ 児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第9回中1ギャップ問題未然防止連絡会議（小中連携会議、指導生徒交流、共有） <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回いじめ防止対策委員会（「中1ギャップ未然防止プラン」の確認・検討） <ul style="list-style-type: none"> ・「中1ギャップ防止プラン」の検証と次年度に向けた取組の検討 ・児童生徒の不登校及び生徒指導に係る実態交流・対応策の検討 ○ 新入学生徒に関する引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・学習、生活、交友関係等の状況及び配慮事項について ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を活用した特別な教育的支援を必要とする児童生徒についての実態交流 	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員が、推進地域における「6年生登校」、各種行事及び校内研修の企画、連絡及び調整等のコーディネートを行うことにより、小・中学校間で詳細な情報共有がなされるとともに、「6年生登校」の授業の拡大、小中一貫教育教科別系統表の改善の案を作成するなど、中1ギャップ未然防止の取組を、小・中学校が連携し、系統性を意識した取組を推進することができた。

○ 効果的な教育課程の改善

小学校第6学年児童が「6年生登校」において、中学校の教職員による乗り入れ授業を受けたり、中学校の行事へ参加したりすることにより、中学校での学習の進め方、学

習規律及び生活のきまりを知ることができ、中学校入学後の学校生活への見通しや期待をもつことができた。また、「6年生登校」の際、小・中学校それぞれの教職員が異校種での授業を行う機会を設定したことにより、発達の段階に応じた指導や支援の在り方について理解を深めることができ、小・中学校の9年間の系統性を意識した指導を心掛けることにつながった。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

中1ギャップ問題未然防止連絡会議において、夏季休業前後に実施した「心と体のチェック」の結果を分析し、否定的な回答が見られた生徒に対し、教育相談を実施するなど、生徒のもつ悩みについて早期発見、早期対応することができた。また、「心と体のチェック」の結果を中学校の全教職員で共有し、悩みをもつと考えられる生徒への組織的な対応を推進することができた。今後、小・中学校で「心と体のチェック」の実施、結果の分析及び結果の蓄積を行い、児童生徒の回答内容の経年変化を見取るなど、予防的な生徒指導の効果を高めるために活用する。

6 今後の課題と対応

○ 9年間を見通した系統的な指導の推進

- ・今年度は、様似町で目指す児童生徒の姿を実現するため、校内研修等の場面で、町内の多くの小・中学校の教職員へ、本事業の活動内容や成果を周知することができ、事業への関心を高めることができた。しかし、「6年生登校」の際、実施する授業数が4教科(算数、体育、音楽、外国語)のみであったり、小学校から中学校へ引率する教員が毎回2名程度であったりするなど、小・中学校の全教職員が主体的に事業に参画することに課題が見られる。そこで、小学校第6学年への乗り入れ授業で実施する教科を増やすとともに、中学校へ引率する小学校の教職員を持ち回りにし、1年間で小学校の全教職員が、中学校の授業参観を行う機会を設定するなどして、小・中学校の全教職員が、本事業に主体的に参画するための機会を検討する必要がある。
- ・様似町の児童生徒に対する、義務教育9年間を見通した教育課程の編成に課題が見られることから、発達の段階に応じた系統的な学習を保障するため、各種調査及び教職員による児童生徒の学習評価等のデータを基に、様似町小中学校一貫教育教科別系統表を見直し、小・中学校の9年間で身に付けさせる資質・能力を明らかにした上で、検証改善サイクルを確立させる必要がある。

函館市立巴中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	函館市立巴中学校	(生徒数 564 名)
小学校名	函館市立大森浜小学校	(児童数 428 名)
	函館市立柏野小学校	(児童数 294 名)
	函館市立中部小学校	(児童数 120 名)
	函館市立中島小学校	(児童数 121 名)
	函館市立北星小学校	(児童数 88 名)

1 推進地域の状況

函館市立巴中学校は平成30年に4校が統合してできた学校である。校区内の小学校は5校であるが、本校へ区域外就学を希望する家庭が多く、多くの小学校から児童が進学し、第1学年が編制されている。そのため、校区が広範囲となり、徒歩通学の時間が45分程度かかる生徒がいる。校区内には函館で最も大きな繁華街である本町地区が含まれており、校外生活において十分な指導が必要である。

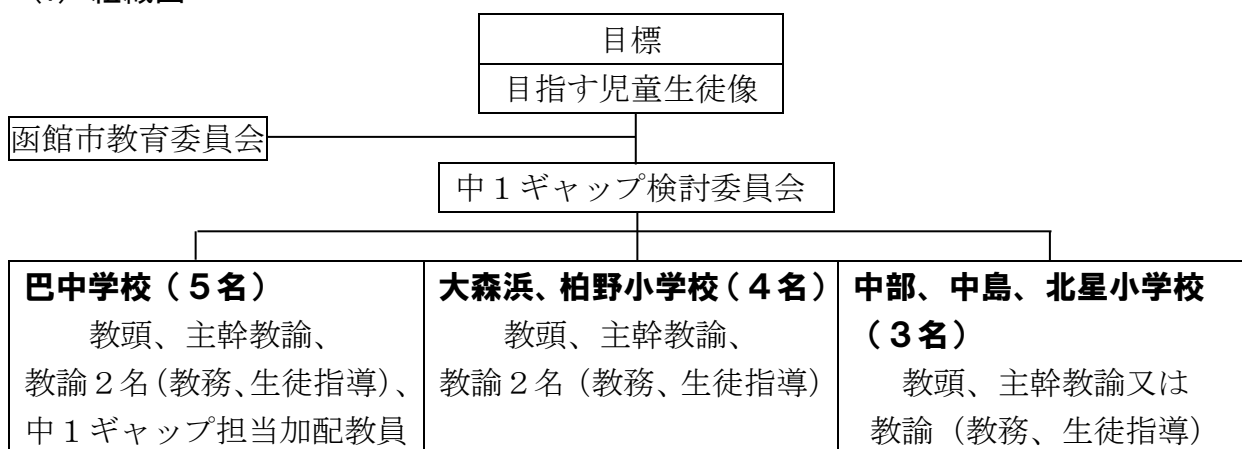
推進地域において、小学校段階で学校生活に適應できない児童が各学年に在籍し、学年が上がるほど増加する傾向にある。また、小学校から中学校に進学した際に、生活環境や人間関係、学習方法等の変化や心身の発達など様々な要因で、学校生活への適應が難しい生徒が一定数在籍している状況が継続している。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・「中1ギャップ検討委員会」を設置することにより、中学校区の小・中学校間の連携体制を構築し、不登校児童生徒数の減少と生徒指導上の諸課題を解決する。
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」などの客観的なデータを活用し、生徒指導上の諸課題を中学校区の小・中学校で共有し、解決を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



事業推進体制の整備

中1ギャップ検討委員会の実施（年2回）、子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と分析（年2回）、自殺予防教育プログラム授業公開（11月15日）


(2) 事業推進体制の整備に関する取組



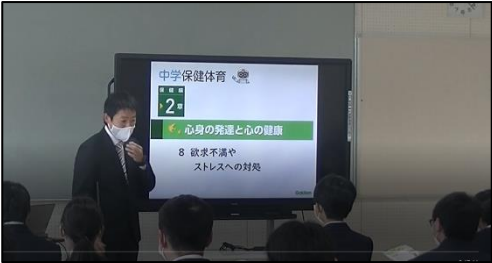
- ・「中1ギャップ検討委員会」を設置し、各学校において年2回実施した「ほっと」の結果の分析を通して、児童生徒理解に活用している。
- ・作成した「中1ギャップ解消プラン」に基づき、中学校における体験授業を実施している。


(3) 加配教員の役割

- ・「ほっと」及び全ての生徒を対象とした教育相談を年2回実施するとともに、生活アンケートやいじめ調査を計画的・定期的に行い、各種調査の分析を校内で情報共有し、取組に生かしている。
- ・年間行事の変更や見直しを実施し、9年間を見通した系統的な教育課程を編成している。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時期	函館市立巴中学校	函館市立大森浜小学校・函館市立柏野小学校・函館市立中部小学校・ 函館市立中島小学校・函館市立北星小学校
4月	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の実施 対面式・部活動見学会の実施 全国学力・学習状況調査の実施	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の実施
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 巴中学校区小中連携校長会議（4月12日実施） </div>		
5月	全学年を対象とした 「情報モラル教室」の実施  部活動発足会及び保護者説明会実施	教育相談の実施 <div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>SNS等の使用における危険性を協議し、発表し合いました。</p> <p>巴中学校として望ましい携帯電話等の使用の仕方を、第1学年全員で確認しました。</p> </div>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会の実施 （5月17日：渡島教育局（Zoomによる遠隔会議）） <ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップ問題未然防止事業の説明 ・各地域の実践報告と今後の課題の確認 </div>		
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 携帯・スマホ・ゲーム機利用時間制限週間（5/27～6/9） </div>		
6月	教育相談の実施	いじめアンケートの実施

時期	巴中学校	大森浜小学校・柏野小学校・中部小学校・中島小学校・北星小学校
7月	子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と分析	
	巴中学校区小中連携教頭部会（7月12日実施）	
	校外生活委員会の実施（書面開催）：1学期の児童生徒の情報交流	
	保護者懇談会の実施	ピア・サポートプログラムの実施
8月	教育相談の実施	教育相談の実施
9月	携帯・スマホ・ゲーム機利用時間制限週間（9/6～9/20）	
	集団カウンセリング研修会参加（9月14日：Zoomによる遠隔会議）	
11月	携帯・スマホ・ゲーム機利用時間制限週間（11/6～11/18）	
	巴中学校第1学年を対象とした高等学校訪問 （北海道函館中部高等学校・ 函館大学付属柏稜高等学校）	
	教育相談の実施	
中1ギャップ問題未然防止事業第2回運営協議会 自殺予防教育プログラム授業公開の実施（11月15日：巴中学校）		
		
・中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会に先立って、授業公開及び事後協議の実施		
子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と分析		

時期	巴中学校	大森浜小学校・柏野小学校・中部小学校・中島小学校・北星小学校										
12月	保護者懇談会の実施	保護者懇談会の実施										
	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>中学校教諭による小学校への乗り入れ授業の実施</p>  <table style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <tr><td>11月16日</td><td>北星小学校</td></tr> <tr><td>12月7日</td><td>中部小学校</td></tr> <tr><td>12月14日</td><td>大森浜小学校</td></tr> <tr><td>12月15日</td><td>柏野小学校</td></tr> <tr><td>12月19日</td><td>中島小学校</td></tr> </table> </div>		11月16日	北星小学校	12月7日	中部小学校	12月14日	大森浜小学校	12月15日	柏野小学校	12月19日	中島小学校
11月16日	北星小学校											
12月7日	中部小学校											
12月14日	大森浜小学校											
12月15日	柏野小学校											
12月19日	中島小学校											
1月	新入生保護者説明会の実施（1月26日：巴中学校）											
2月	巴中学校区小中連携校長部会（2月2日実施）											
	携帯・スマホ・ゲーム機利用時間制限週間（2/2～2/16）											
	中学校教諭による小学校への乗り入れ授業の実施											
3月	新入生体験入学の実施（3月2日：巴中学校）											

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、「ほっと」や生活アンケートなどの各種調査の分析を行い、校内で情報共有し取組に生かしたことにより、生徒同士の信頼関係の構築や支持的風土を醸成し、学びに向かう集団づくりにつながった。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域における目指す子どもの姿の実現に向け、9年間を見通して育成する資質・能力を踏まえて教育課程を改善したことにより、学習指導や生徒指導面において学びの連続性を意識した指導を行うことができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

結果について各学年や生徒指導部で気になる記載や回答を確認し、教育相談を実施したことにより、生徒一人一人に寄り添った支援を行うことができた。

6 今後の課題と対応

○ 加配教員による取組の充実

学校の教育活動全体を通じた取組を推進するために、「中1ギャップ検討委員会」を定期的で開催したり、Web会議システムを活用して意見交流を活性化させたりするなど、加配教員を中心とした取組をより一層充実させる必要がある。

○ 不登校児童生徒への支援策及び未然防止策

不登校生徒への支援策として本校独自に設置している「巴サポートルーム」を効果的に活用するために、運用の仕方を不登校生徒に周知するとともに、保護者と一層の連携を図る必要がある。さらに、1人1台端末を学習支援だけでなく、コミュニケーションツールとして活用し、不登校生徒と学級担任等との信頼関係の構築に生かす必要がある。

厚沢部町立厚沢部中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	厚沢部町立厚沢部中学校 (生徒数 77名)
小学校名	厚沢部町立厚沢部小学校 (児童数 105名)
	厚沢部町立館小学校 (児童数 39名)
	厚沢部町立鶉小学校 (児童数 19名)

1 推進地域の状況

厚沢部町の中心部に位置する厚沢部中学校は、全町を校区としている。厚沢部中学校区には厚沢部小学校・館小学校・鶉小学校の3つの小学校がある。

全国学力・学習状況調査の結果は、小学校、中学校共に全教科で全国平均を超えており、学力が高い。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、基本的な生活習慣が概ね身に付いているが、朝食を毎日食べていない児童生徒やテレビ・ネットの使用時間が5時間以上と回答している児童生徒が一定数いるという現状がある。

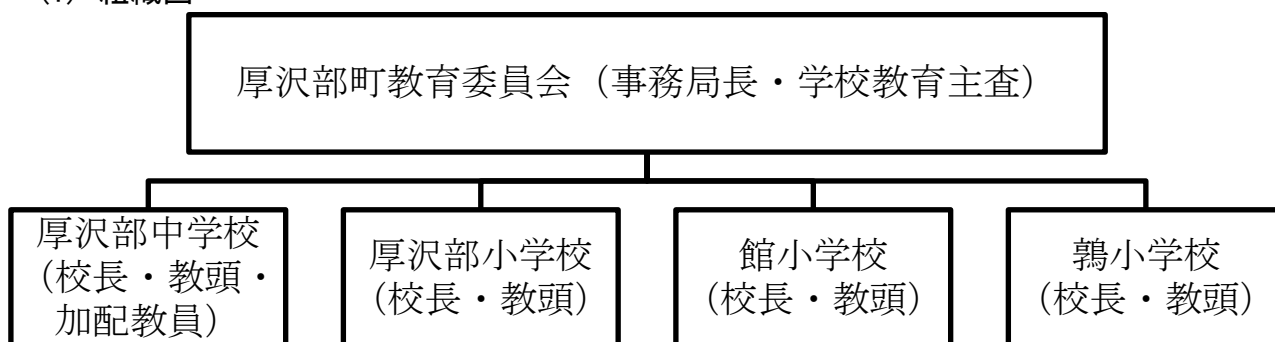
不登校児童生徒のうち、前年度から継続して不登校が続いている児童生徒は少ない。今年度新たに不登校となった生徒はいずれも中学校入学後に不登校となっている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 学習指導や生徒指導及び特別支援教育に係る定期的な部会を通して、推進地域の全教職員が異校種の相互理解の促進や確実な情報共有を行い、小・中学校間の円滑な接続を目指す。
- 小学校3校間の連携を促進し、合同授業等を通して児童間のよりよい人間関係を構築する。
- 小学校第5・6学年児童の中学校登校を通して、中学校入学に向けた児童の期待感の醸成と不安感の軽減を図る。
- 家庭や関係機関との連携を強化し、地域総ぐるみで子どもを育てる意識の高揚に向けた啓発活動に取り組む。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「中1ギャップ検討委員会」を設置して定期的実施している。実施日は授業見学も同時に行う。
- ・教育課程部会、生徒指導部会、特別支援部会を設置し、それぞれの部会で全国学力・学習状況調査の分析、子ども理解支援ツール「ほっと」の分析と交流、生徒指導実態交流等を定期的（年間4回程度）に行う。
- ・ICT教育推進委員会を組織し、ICT活用に関する研修を年間3回実施する。

- ・中1ギャップ解消に向けた全体計画を作成し、各学校から中心スタッフとなる教育課程部会担当者、生徒指導部会担当者、特別支援部会担当者を選出し、活動する。
- ・不登校児童生徒及び不登校の傾向が見られた児童生徒に対する対応策について、生徒指導部会が中心となって協議を行う。

(3) 加配教員の役割

- ・児童生徒の人間関係構築力を育てるための場の設定のために必要な年間指導計画の見直しや小・中学校間の連絡・調整を行う。
- ・「ほっと」や生活アンケート、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査等を分析し、結果に基づいた共通の課題を見いだすとともに、改善のための取組を進める。
- ・共通の課題を解決するための指導方針を作成し、期限や具体策を示すなどして、各学校の取組が進むよう促す。
- ・各学校で行っている不登校児童生徒への支援策を把握し、小・中学校で共有することによって、児童生徒の理解やICTを活用した学びの保障等の取組に生かせるようにする。
- ・短期欠席の児童生徒に対しても児童生徒理解・支援シートを作成し、効果的に活用することで、不登校を未然に防止する取組を行う。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	厚沢部町立厚沢部中学校	厚沢部町立厚沢部小学校・厚沢部町立館小学校・厚沢部町立鶉小学校
4月	<p>○新入学生徒情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習面、生活面、交友関係、特別な配慮や支援を要する児童への対応などの情報について 	
5月	<p>○中1ギャップ検討委員会（小中一貫教育コアチーム会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の重点的取組について ・「中1ギャップ問題未然防止事業」について ・各部会の活動について（プラン検討） 	
6月	<p>○第1回生徒指導交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教職員が中学校の授業を参観し、中学進学後の児童生徒の変容、実態、効果的な指導について協議 <p>○「ほっと」の各校実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で「ほっと」を実施し、各校で分析 <p>○第1回小6中学校登校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校第6学年の児童が中学校に登校して授業見学 	



時 期	厚沢部中学校	厚沢部小学校・館小学校・鶉小学校
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> ○「ほっと」の分析結果の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会で各校の分析結果を交流し、効果的な指導について協議 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援児童生徒実態の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援部会で児童生徒の実態を交流し、効果的な指導を協議 ○中1ギャップ検討委員会（小中一貫教育コアチーム部長会議） <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の現状について協議し、課題を整理・共有 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○「ほっと」の分析結果の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会で各校の分析結果と変容を交流し、効果的指導を協議 ○小5中学校登校 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の文化祭総練習の見学と中学校の授業を体験 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回小6中学校登校（新型コロナウイルス感染症対策で中止） ○子供議会（オンライン） <ul style="list-style-type: none"> ・児童会役員と生徒会役員でネットマナーについての実態交流とルールに関する話し合い ○中1ギャップ検討委員会（小中一貫コアチーム会議） <ul style="list-style-type: none"> ・現状の確認、課題把握と取組内容の修正、協議 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回生徒指導交流会 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教職員が小学校の授業を参観し、効果的な指導について協議 ・不登校、いじめの現状交流と効果的な指導について協議 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○4校合同学校運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に関する現状報告と保護者、地域住民アンケート結果等の情報共有 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回小6中学校登校（兼中学校入学説明会） <ul style="list-style-type: none"> ・中学校に関する説明と中学生との交流（質問、回答形式） ○「ほっとプラス」分析結果交流 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会で分析結果を交流、効果的な指導について協議 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○中1ギャップ検討委員会（小中一貫コアチーム会議） <ul style="list-style-type: none"> ・取組の反省、成果と課題の共有、次年度展望 	



5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員が中心となり、「ほっと」「ほっとプラス」の分析を行い、分析結果の情報交流、小中が連携して効果的な指導、支援の方法を小学校教員と協議し、各学校における不登校未然防止策を作成するとともに、防止策を実践したことにより、小学校の不登校児童数は0となった。

○ 効果的な教育課程の改善

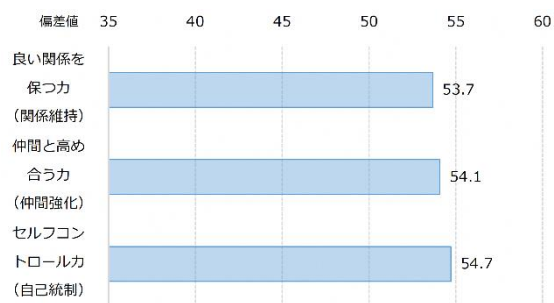
小学校と中学校の相互の授業参観や新年度に向けた引継ぎについて、加配教員が参加することにより、児童生徒の実態をよりの確に把握し、小・中9年間で育成する子どもの姿の明確化につなげることができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

表面的にはわかりにくい生徒の機微の変化について細かく察知することができるとともに集計結果を教職員間で情報共有し、集合知として対応を協議することにより、生徒の心身の健康状態の細かなケアができ、不登校の未然防止につながった。

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

外部講師を招へいして、ソーシャルスキルに関する授業等を実施することにより、中学1年のソーシャルスキル尺度得点の関係維持が 50.3 (5月)→53.7 (12月)、仲間強化が 51.3→54.1、自己統制が 52.0→54.7 と高くなり、人間関係を築く力が育成されていることが明らかとなった。



6 今後の課題と対応

○ 9年間を見通した教育課程の編成について

義務教育9年間の最終学年である中学3年生のあるべき姿について、小・中学校教員間で共通確認が不十分であり、一貫性に欠ける部分が見られる。そのため、9年間を通した、目指す児童生徒像に基づく教育課程の改善に積極的に取り組む必要がある。

○ 学校間の情報共有方法の効率化

小学校間、小・中学校間の児童生徒の情報共有の方法が現在のところ、紙媒体が中心のため、非効率であった。そのため、児童生徒の情報共有についてはデジタル化を図り、効率的な情報管理のシステムづくりを構築する必要がある。

○ 「ほっと」のさらなる効果的活用

学校間で「ほっと」の全体傾向等についての分析交流は行ったが、個々の児童生徒の細かなケアについての分析はできなかった。そのため、「ほっと」の実施結果から個々の児童生徒へのケアについて検討する必要がある。

○ 別室登校対応の検討

不登校の未然防止は一定の効果을あげているが、別室登校の児童生徒へのきめ細かな対応は依然として十分ではない。そのため、別室登校の児童生徒への対応についても本事業で対応を協議していく必要がある。

○ 家庭や関係機関との連携

ホームページ等の頻繁な更新で本事業のアピールを行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、直接訪問してもらっての学校見学等ができず、地域ぐるみで子どもを育成する意識の高揚に向けた啓発活動までは取り組むことができなかった。今後、意図的に機会を設けて、児童生徒を直接参観し、取組成果を還流していく必要がある。